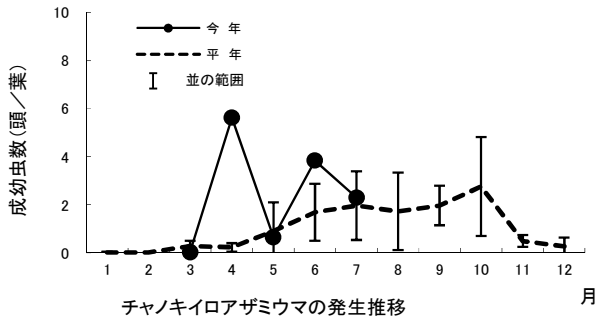
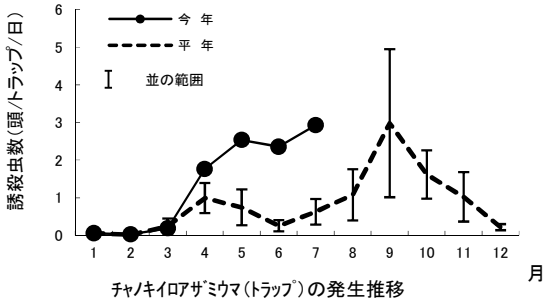
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
7 月の発生量（現況）	並		
8 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、7月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）





- 調査地域：石垣市
- 新葉あたり成虫・幼虫数（頭/葉）：2.3（前年0.3、平年2.0、判定「並」）
- 黄色粘着トラップ誘殺虫数（頭/日）：3.0（前年0.2、平年0.9、判定「多」）
  ※一部施設で多発

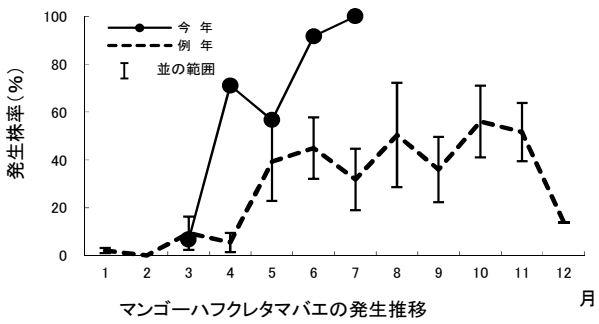
防除のポイント

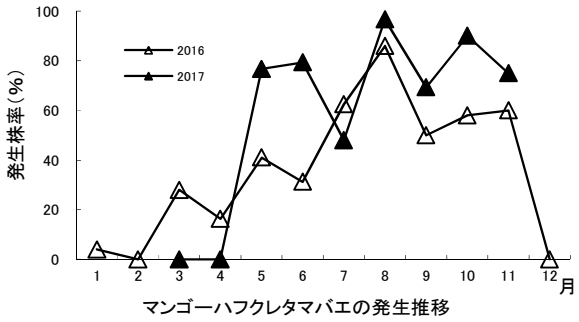
・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
7 月の発生量（現況）	多		
8 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の例年の発生推移から、７月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）





・　調査地域：石垣市
・　発生株率（%）：100.0（前年48.0、例年31.8、判定「多」）

防除のポイント

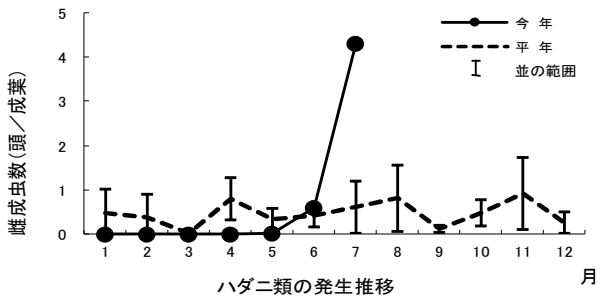
・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

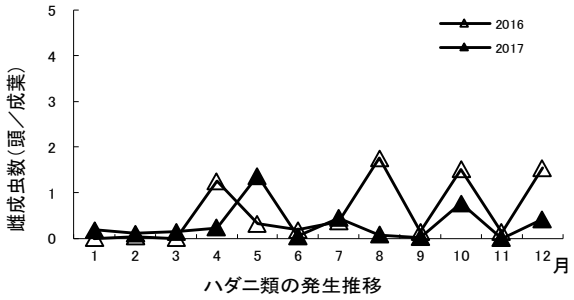
・翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
7 月の発生量（現況）	多		
8 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、７月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）





- 調査地域：石垣市
- 成葉あたり雌成虫数（頭/葉）：4.3（前年0.4、平年0.6、判定「多」）
- 新葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0.4（前年0.5）
- 発生種：シュレイツメハダニ
  ※一部ほ場で多発

防除のポイント

・収穫終了後の防除を徹底する。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。